

公表

事業所における自己評価総括表（放課後デイサービス）

○事業所名	社会福祉法人 心響会 タップチップス		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日 ~ 2026年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日 ~ 2026年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 長期休暇や休日などに専門職による療育や行事の取り組みに力を入れている。 本人の特性に合わせて、児発から放デイにスムーズに移行できる環境などを調整している。 	<ul style="list-style-type: none"> 療育では本人の特性に合わせた課題を設定したりして、職員間で工夫しながら行っている。行事に関しては年間行事計画を作成して、計画に沿って風習や習慣を体験しながら学習したり、社会見学を行ったりと、集団生活の中で社会人になるにあたってのルールなどを学んだり共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は様々な行事を行い、社会見学としての場所を広げ、外出することも多く充実した行事を行う事が出来た。子供達が行った事の無い場所へ出かけたりして、子供達の興味や視野を広げていければ。
2	<ul style="list-style-type: none"> 日中活動や短期入所を通じて生活課題についての訓練や生活に必要なルールを伝えながら成長を促している。 行事の取組を強化しており、公共の施設など外出や体育館を借りて運動会などを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援、放課後デイサービスから短期入所を利用する一連の流れを作り、成長した際も生活に困る事なく過ごせるように、生活面やADL強化、集団行動などを行い、自立に向けた訓練等を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画を元に支援日誌に課題を設定しているので、日常生活に必要な訓練を保育士や他専門職などで情報を共有しながら、それぞれの専門知識を活かすことで、質の高い支援を行えるように努める。
3	<ul style="list-style-type: none"> 広範囲の地域にまたがり、様々な子供を受け入れる体制を整えている。また、短期入所事業も行っているため、家族の実情に合わせた支援方法を提案している。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の地域だけでなく、遠方にも範囲を広げて、困難事例の家庭なども多く受け入れている。 保護者のレスパイトにも力を入れており、家族の負担を減らす役割も担っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本財団に送迎車両の申請を行ったり、職員の人数を増やしたりして、今後も広範囲の人達を受け入れる体制を整えていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 送迎範囲が広く施設での滞在時間が少ないため、支援する時間が短時間になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の強みでもあるが、広範囲の地域で送迎をしている為、施設での滞在時間が短く支援する時間が短くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 短時間などでも行える支援プログラムを立てたりして、効率的に支援を行う事が出来るような工夫が必要である。 行事の取り組みに力を入れているので、休みの日など長時間子供が滞在できる時間に充実した支援を行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> 地域や他事業所などの交流機会が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や他事業所などとは接点があり多くないため、交流機会が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会見学や近隣のゴミ拾いを通じて、地域と繋がりや交流を図っていく。 基幹センター等が主催する見学会や研修会に参加するなどして、他事業所との交流機会を増やしていき、地域の実情などを把握して行く。
3			